

# SSKO 東腎協

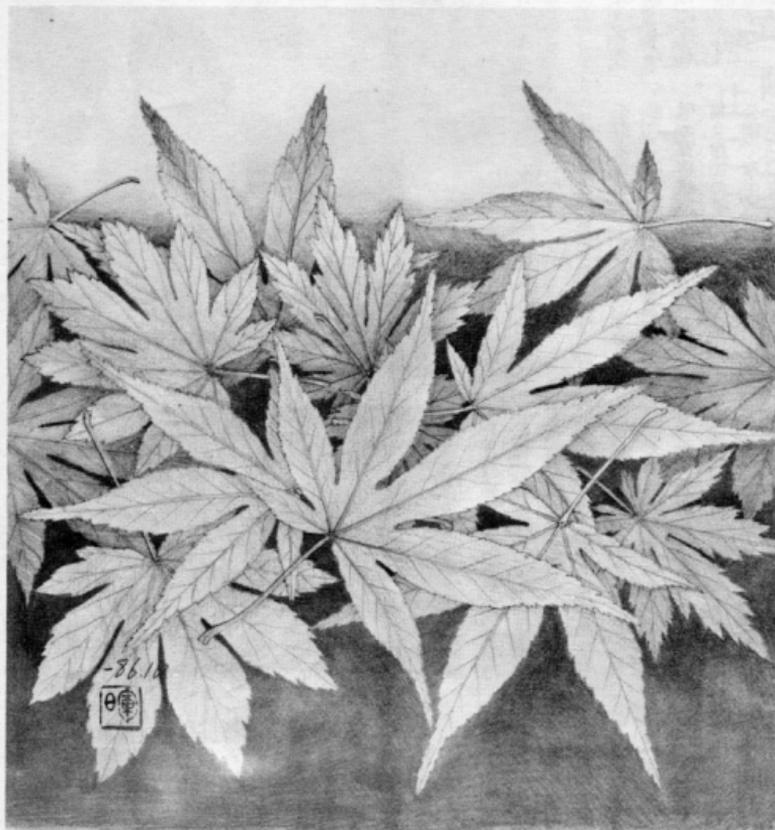
86年10月25日

No. 63

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）  
事務局・〒161 東京都

電話・

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可  
SSKO通巻第一三九六号（毎週月・水・金曜日発行）  
昭和六十一年十月二十六日発行



え・大森輝秋

◎会活動を盛んにするために—学習交流会を開く

◎腎バンク拡大街頭キャンペーン ◎障害年金の支給停止について

# 腎バンク街頭キャンペーン

## 東京は銀座・八王子で

毎年実施されている腎バンク  
拡大街頭キャンペーンが、十月  
五日(日)全国いっせいに  
行われました。  
東京では、銀座、八王子の二  
カ所で一萬五千枚のチラシを配  
布、道ゆく人に腎バンクの登録



を訴えました。キャンペーンの  
前日の四日(土)は、厚生省主  
催の腎移植推進国民大会もあり、  
集会参加の後、銀座の数寄屋橋  
公園で厚生省で作ったチラシを  
配布しました。(写真は、厚生  
省と全腎協のチラシ)

### 都議会へ請願



七月の暑い中で集めていただ  
いた署名は、八月二十八日(木)  
議政局に提出、受理されました。  
九月議会に間に合わせるため  
には八月中に提出ということで、  
署名を整理してすぐに提出とな  
り、国会請願のように集会を開  
く時間がとれませんでした。  
なお、署名数は二六、三四三  
人です。いろいろと忙しいなか  
を、ご苦労様でした。

### 幹事会を開催

東腎協第十七回幹事会が九月  
七日(日)、都障害者福祉会館で  
開催、二十九人が参加しました。  
一ノ清副会長の司会で始めら  
れ、石川会長のあいさつ、議長  
に井上常任幹事を選出しました。  
議事に入り、六十一年度上期  
活動を森事務局長、同会計を竹  
田会計から報告され承認されま  
した。次に討議事項に移り、  
(1)十月五日の腎バンク拡大街頭  
キャンペーンについて  
(2)第十六次国会請願署名・募金  
運動について  
(3)会員交流会(ボウリング大会)  
(4)全腎協実態調査  
のそれぞれの項につき討議しま  
した。  
討議事項終了後、森事務局長  
から都庁、都議会に対する要請  
活動の報告がありました。  
最後に平沢副会長の閉会あい  
さつがあり幕を閉じました。

## 「国民年金」「障害年金の支給停止について」

東腎協会員のAさんは、昭和五十四年二月に人工透析治療を導入し、五十四年六月から国民年金の障害年金二級を受給していました。ところが、この五月

を通じて当該社会保険事務所に指摘すると今度は「国民年金法別表不該当のため」という事由で、再び支給停止の通知がありました。

に現況届を出したところ、「傷害の程度が国民年金法別表の二級から三級に該当となったため」という事由で支給停止の通知を受けたとの相談がありました。

しかし、現況届に添付した診断書の臨床所見、腎機能検査成績とともに認定基準をみたりおたり、また、障害の程度が軽くなったとは考えられず、支給停止の決定は不当であるとして不服審査請求を行いました。が、「審査請求を棄却する」旨の決定書が東京都社会保険審査官名で送られてきました。

既裁定者については旧法で再認定を行うことになっているにもかかわらず、このAさんの場合は新法で再認定が行われたのではないかと思われました。なぜなら、国民年金には一級と二級しかなく、厚生年金の認定基準にのみ「人工透析療法施行中のものは、原則として三級に認定する」とあったのです。

その理由としては、①臨床所見、腎機能検査においては二級の認定基準をみたしているが、一般状態区分表では「軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や産業は

できる」となっている。②現時の日常生活活動能力または労働能力においては、「軽作業、事務などはある程度可能」となっている。③当審査官の実態調査によれば、日常生活の動作として、身のまわりの事、自分の仕事は出来る状態にあり、過激な仕事、長途の歩行を除けば、平均的な環境のもとに日々の生活を他人に頼ることなく送れる程度の障害の状態にあると思慮する。④以上から総合的に勘案すると、再認定時における障害の程度は、身体の機能の障害または長期にわたる安静を必要とする病状が認められる状態であって、日常生活が著しい制限を受けるか、または日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のものとする、法別表の二級に該当するとは認めることができない。としています。

この旨全腎協から社会保険庁

このAさんの例での問題点としては、腎機能検査及び臨床所

見において認定基準をみたしている、一般状態も特に改善されていないのに支給停止になったこと。また、審査官の実態調査における基本生活能力についても、「洗面は自分でできるか」とか「歩行はどの程度できるか」、「用便は便器を使ってするのか」などで、腎機能障害独自の障害についてはまったく配慮されていないこと、審査官の論理からいくと従来から国民年金の障害年金二級を受けている透析患者のほとんどの人は支給停止にすることは必至です。

Aさんの例では、今後は社会保険審査会へ再審査請求する途もあり、全腎協とも協議をしていくことにしています。

会員の皆さんへお願い  
障害年金や児童扶養手当について支給停止の通知などを受けた場合は事務局までご連絡ください。

# 会活動を盛んにするために 学習交流会を開く

東腎協の学習交流会が、七月二十日、新宿の戸山サンライズ(全国身体障害者総合福祉センター)で開かれました。各患者会の役員や幹事、常任幹事など四十五人が参加し、「会活動をさかんにするために」と題して、シンポジウム形式の討論が熱心に行われました。

会は、石川会長のあいさつのち、高橋副会長による「患者運動と患者会の位置づけ」の報告を受け、当日の討論のテーマを整理いたしました。つづいて、シンポジウムに入り、患者会

## 患者運動と患者会の位置づけ

東腎協副会長 高橋勇二郎

患者運動とは何か、どう考えていったらよいか、基本的考え方をお述べたいと思います。

まず、患者運動とは、一人一人の患者が健康をめざして、病気を治すための活動である、と

らえたらどうでしょうか。

運動というと、会とか団体がある、活動すること、とらえがちですが、ここでは、もっと基本的にもどって、個人の問題としてとらえるところから出発したらど

活動が活発に行われている患者会の中で、特に代表的な四つの会(慈秀病院若葉会、腎研友の会、調布病院腎友会、代々木病院腎友会)の役員の方にシンポジストになっていただき、各会の活動内容と、いかにして会を活発にしているかを報告していただきました。そのあと、高橋副会長の司会で、会場の参加者もまじえて、活動内容を項目別に討論しました。以下、発言の一部を抜き出して報告します。(まとめ・高橋)

うでしょう。

会や団体は、その患者個人が健康をめざすという運動の延長線上にあるのだという認識です。

どうも、患者運動とか、全腎協、東腎協運動について、会員の中では、なにか企業の組合みたいなものをイメージしている人が多いと思います。

会費を払い、事務局が事務を代行したり、情報を提供したり、

代表が運動してくれることによって会員の利益が守られるというような形です。

もっと極端な人になると、なにか芸能人のファンクラブに入っているような感じで、会費を払っているのだから、知りたいたい情報をもっとたくさん送って来て、優先的に自分の座席(我々の場合ベッドになります)を確保してくれたり、常時催し

物があって、自分の好きな時にいつでも参加できるようにしてほしいと思うわけです。

そうではなくて、患者個人個人が運動の主体者であることを説明しなければなりません。

もう一度言いますが、患者運動とは、一人一人の患者が、健康をめざして病氣とたたかう運動です。

では、健康をめざして病氣とたたかうとはどういうことでしょうか。

ここで、全腎協が五年前に発行した「患者会活動の手引」の中で述べられていることを引用しますと、

① 病氣をよく知ること。  
まず、たたかう相手をよく知らないで負けてしまいます。

② 病氣とたたかう気概を持つこと。

元氣を出して、受け身でなく、積極的にがんばっていくことです。

③ 病氣とたたかう条件整備をすること。

充分な医療を受けられるようにすることや、生活の安定をはかることです。

これら三要素が、個人から見た患者運動の基本ではないでしょうか。

以上をうけて、

全腎協、東腎協、および病院患者会での運動の取り組みになります。

① 病氣をよく知るということに関しては、会では情報を流し、知識を広める活動ということになります。

東腎協では機関誌、講演、学習会など。患者会では会報、講習会、栄養指導などです。

② 病氣とたたかう気概を持つ、積極的にがんばるといふことに関しては、会では患者同志交流し、励ましあうということになります。

東腎協では会員交流会があり、

機関誌や十年誌などでの患者体験記などの励ましもあります。

患者会では、交流やレクリエーション、旅行などの企画でしょう。

③ 病氣とたたかう条件整備ということに関しては、これがそが全腎協、東腎協結成の大きな動機でしたが、医療と福祉を充実させ、療養条件を整備するということになります。

東腎協では請願・要請、街頭キャンペーンなど、患者会ではよりよい治療のための病院との話し合いや、会員の医療福祉相談となるでしょう。

これらの運動の取り組みは、バランスよく行わなければなりません。

③の活動が主に外部へ向かっての活動とすると、①②の活動は内部へ向かっての活動でしょう。役割分担として、

全男協、東腎協はどうしても、③中心にならざるをえませんが、病院患者会では、①②を活発に行うことが患者運動の役割ではないでしょうか。

以上の基本にもとづいて、会活動をさかんにするには、どうしたらよいか話し合っていくかと思っています。

## 会の活動は命を守る為の闘い

慈秀病院若葉会会長 小川 嗣雄

私自身の経験を二つばかり、

お話ししたいと思います。

その二つの大きな経験が現在行っています会活動の根本をな

すような出来事でした。

十年位前になりますが、透析に入ったばかりの当時の私達としては、会活動として、東腎協



や全腎協があり、医療が整備されていけば、日常的なもの、そんなに困ることはないのではないかと思っていました。

最初に入った病院は、大学のサテライトの病院でしたが、私も始めの一、二年は、医療というものは、ドクターに任せられた部分が圧倒的に多いわけで、データとか問題は、任せておけば一定の所でカバーできるのだろうと考えていました。

ところが、二、三年経った時に足の骨折をして、三カ月はかかり入院しました。その時、治っ

て退院した時に、こんな話を聞きました。

「あなたは、もう半年ぐらいい前からデーター的には、かなり骨の状態が悪かったのです」

それを聞いて、ものすごく憤慨しました。いままで話がなくて、骨折してみても初めて、こんなふうな話があったのです。

そこで、自分にも反省する所はありますが、医者任せではなく、患者同志の情報の中で、今の医療の現状を知っていくことが、すごく重要なポイントではないかと認識しました。

それから、もう一つは、これは医療として今の社会の中の問題ですが、通院していた病院が保険請求の不正で、東京都からすぐつぶすという通知を受けたそうです。

そのことが、次の日の新聞に出るという前の日に、院長から「東京都から、そういう形の通知が来て、すぐに病院がつぶさ

れてしまう。自分としては、しようがないから、つぶすつもりだ」というふうな話が私にありました。その時は、患者は三十

数人おり、患者会を作ったばかりで、私が会長をやっていました。非常にびびくりしました。

幸い、その時に東腎協とつながりができまして、今はお亡くなりになった宝生会長や、石川現会長におこしいいただき、指導を受けたわけです。

その時も、東京都の姿勢というものは、別に患者の命を守ろうとかいう姿勢はないのです。要するに、法律に照らし合わせて不正をしたのだから、あと一週間後でも病院をつぶすということしかないのです。

我々は患者会を作ったばかりで、なにもやることがわかりませんでしたので、東腎協の方の指導を受けながら、東京都に要請に行ったり、いろいろなことをやりました。

## 4 患者会の紹介

### 慈秀病院若葉会

設立 五十八年六月  
 会員数 六十五人  
 会報 五号  
 会費 年二四〇〇円

### 腎研友の会

設立 五十一年  
 会員数 九十九人  
 会報 四号  
 会費 年二〇〇〇円

### 調布病院腎友会

設立 五十三年  
 会員数 百二十三人  
 会報 二号  
 会費 年二〇〇〇円

### 代々木病院腎友会

設立 四十六年  
 会員数 透析八十四人  
 外來約六十人  
 会報 八十二号  
 会費 年二〇〇〇円



小川嗣雄さん

その中で、最終的な病院との話し合いの会合を持ったのですが、その時、日常的には、ほとんど会に興味のなかった方も、全員が集まったのです。

体が不自由で、横になつているのがやっつとのような人達も、背負われながら、会場に来て、横になつても話を聞いていたのです。

やっばり、医療の根本の所で我々が圧迫されれば、患者はかならず結果するのではないかと、いうことを一つ学びました。

以上、二つの点を自分自身で体験して、現在の会の活動に入つていったわけです。

今、慈秀病院での一番大きな会の活動の基本は、透析をやっ

ているということは、命を守るためのたまたかいですから、医療を最前提に活動しようということとです。

まず第一に考えたのは、ドクターの問題です。

今一番叫ばれていることは、透析の専任のドクターが非常に少なくなつてきていることです。それだからこそ、透析患者に

対して積極的な前向きな姿勢を持ったドクターを、我々自身の中で要求して、育てていくというふうなことです。

病院では現在四名、腎臓、消化器内科、循環器という形の各違つ分野のドクターをそろえてもらっています。

次に、これから長期透析になると、合併症が出てくるということ、私の病院では、周りにあります大学病院や公立の大きな病院と連絡をとって、いつでもその病院に、我々が何かあった時には受け付けてもらえるよ

うにしてもらいたいと要請し、現在五つの病院と、そのような体制を作ってもらつております。

次に、もっと具体的な会の活動はどうするかという点、基本的なものの方では、日常的にロカールームで、患者同志が会つて、「おはよう」「こんにちは」「元気？」というふうな、この形が患者会の基本だろうと思つています。

確かに、花見や旅行をやつたり、機関誌を出したり、いろいろなことをしますけれども、一番大切なのは、患者同志がいかに信頼関係を持つかということとです。その中で問題を解決し、

お互い良い影響を及ぼしあつていくことが医療をもよくしていくことになると思つています。

そういう意味で、病院に要求したことは、かなり大きなロカールームを設置してもらつたことで、実現しました。

そのスペースの中で、時間のある限り、患者同志いろんな話をしております。

以上、慈秀病院では、命を守るためには、お互い声を掛けあつて、お互いの体を心配し、お互いを引き上げていくことが、すべて会員八十人の状態を良くしていくことだろうと思つています。

## きめ細かな会活動で親睦を

腎研友の会副会長 原三代吉

腎研友の会のこの一年の活動といたしましては、新年会、旅行、学習会などがあります。その他、全腎協、東腎協の活動の一環として、国会請願署名運動、腎バンク、請願などの活動も極



原三代吉さん

力参加して努力しています。それから、会報の発行は、昨年二月より、年三回というところで行っております。会長と協力して、どうしても出そうということではじめました。発行する以前は、会の親睦についていろいろ問題がありました。会報を出してから、会員の交流と親睦というものが、だいぶ図られたと考えています。

原稿については、ナース、テクニシャン、先生、その他事務所関係の方々など職員の協力も得ております。内容につきましては、病氣、悩み、生活、レジャー、スポーツ、その他なんでも結構ということをやっております。

最近では、患者さんで商売をしている方が、だいぶおられるのですが、その人達の商売の広告を載せてもらえないかという要望で、一回千円の広告料をいただいで出しております。

それから、病院との協力関係という点では、役員の三人が院長先生と細かく相談し合っています、病院からいろいろな面で、協力を受けております。補助金のほうも、年間三十万円を会活動に援助しようということで、五年いたたいております。

会活動の内容としましては、新しい患者さんが入りますと、看護婦の主任さんにより、更衣室に名前が張り出され、役員に連絡していただいております。

その患者さんに、役員が積極的に会の申込用紙を持って、加入を勧めるといふふうにしております。当然、会に入りますと会則を渡し、東腎協の会則も渡すようにしています。

次に、新年会について説明いたしますと、ここ五、六年は高田馬場駅前のビックボックスという大きな会場を使っており、全員が参加することは、不可能ですが、平均四十人ほどの参加者で行っております。

その場合、会費は大人千五百円、子ども千円です。当日前から七千円かかるのですが、あまり会費をとると、参加者がどうしても少なくなるということで、あとの負担は会が持つということで行っております。

会の予算は、年間二十万円で、病院の援助が三十万円ありますので、年間合計五十万円です。なんとか運営しております。

それから、旅行については、毎年旅行するには予算がないので、三年に一度行っております。五十八年四月には、桜がすばらしいということで、長野県の高遠へ一泊旅行を行っております。

また今年四月には、三浦半島・城ヶ島へ日帰りバス旅行を行い、楽しく親睦を図りました。

それから、学習会については、毎年九月に実施しております。

最近の内容については、日大の栄養士の方をお呼びして食事指導を行ったこと、宝生東腎協前会長により、全腎協、東腎協活動について説明いただいたこと、また、昨年度は泉山会長代行により、新年金法について説明をうけたことなどがあります。

院長先生には、合併症の問題、特に、骨の問題についてお話しいただきました。

そのほか、掲示板を病院との話で用意していただき、連絡に利用していること。また、会で本箱を用意し、透析医療関係、福祉関係などの本を購入して、みんなで読んでいることなどがあります。今では本も三十冊ほどになり、これはいへん喜ばれております。

今後の予定として、今年度が病院の設立十周年ということで、透析歴十年以上の人に、会より記念品を差し上げることなどを考えております。

以上、会費の運営には、いろいろ案を出していただいて、会員に喜んでもらえるような方法を考えております。

## 毎年五月に勉強会を開催

調布病院腎友会事務局長 坂野一寿

調布病院では、病院主催、腎友会後援によりまして、五月頃いつも「透析を考える会」という会をやっております。

これは、朝十時から夕方四時頃まで、すべて病院の費用で、弁当も出て行っております。

これは勉強会というのが主体ですが、たとえば、去年行ったプログラムを申し上げます。

去年のテーマが、四時間透析と五時間透析における諸症状、および透析効率の比較ということでした。去年問題になりましたことを、いろいろデータを出

してもらって、テクニシャンが話しました。

それから、テーブルディスカッションとしまして、調布病院で腎移植をした人達を五名呼びまして、どういう効果が出ているかということ話をいたしました。

それから、東レの技術部長さんに来ていただきました。「透析療法、現在、未来」ということで、技術的に今、透析の膜がどういふふうになっているかという話を話していただきました。

それから、病院の方からの話としては、高コレステロール血症という問題がありました。

これは独身者が多いため、外食で食事療法をする場合、どう注意したらよいかという点について、栄養士さんよりの話です。

その後、総合ディスカッションという感じで行いました。

その報告書が、年一冊、六十ページぐらいで、病院により作られますが、病院の費用が三万円くらいかかるそうです。

そのほかに、「成績優秀者を囲んで」という懇談会を開きました。

私達の病院では、一カ月ごとに成績表というものが出ます。

それに秀、優、良、可というふうに、点数がついてきます。体重の増加、ヘマトクリット、血圧、リン、カリウム、さらにGOT、GPTなど、それらにすべて点数がつきまして、九点以上が優というふうにやっております。

## 会員交流会(ボウリング大会)のお知らせ

日 時	11月9日(日)	正午～午後2時30分
会 場	シチズンボウル	新宿区高田馬場4-29-27 ☎(363)2211
参 加 者	60人(予定)	
実施要領	1チーム3人(又は2人)で2ゲーム(ゲーム終了後交流会)	
会 費	1,200円(靴代は別)	
申 込 先	東腎協事務局へ(個人会員も参加可)	



坂野一寿さん

ます。

それをもとに、非常に成績優秀な人を病院から選んでいただいて、一体どうして、そんなに点数が良いのか、皆さんに考えてもらうということで懇談会を開きました。

こんなことが特徴的なこととして行われています。

あとは皆さんと同じで、バス旅行とか昼食会、忘年会などが行われています。

最後に、今の悩みといいますが、会を作ってから七年ほど経ちますが、空洞化という現象が現われています。

初めは、一生懸命で、皆、なにをやっても出て来てくれたのですが、会がだんだん大きくな

って、年数が経ってくると、やっぱり安心感が出てくるのか、空洞化現象が出てくるのです。旅行とか、懇談会とか、なにをやっても同じで、出てくる人はいつも決まっています、出てこない人も同じということで、差が出てきています。

これは調布病院だけかもしれませんが、意外と元気な人にかぎって、腎友会にそっぽを向いています。

弱っている人や、生活に困っているとか、助けてほしいという人、そういう人が頼ってくるということですね。

自分で車を運転したり、家族で旅行に行く人は、絶対にバス旅行に参加したり、昼食会に出てきたりしません。

へたをすれば、会にも入らないという状況です。

会に入らない人に対しては、会報を配らないなどの区別も行うようになりましたが、なかなか

か効果が上がリません。それがどうしてかということ、原因を考えていますが、う

## 機関紙を毎月発行、83号に

代々木病院腎友会事務局長 久保谷恵子

代々木病院の腎友会は、透析部と腎外来部に分かれていて、役員は十七人おります。

透析部では十人の役員で、いろんな学習であるとか、レクリエーション、機関紙の発行、各曜日の会計など任務分担して活動しています。

また、役員のほかに、四年ほど前から連絡員というのを置きました。各曜日に一人ずつ置きまして、仕事としては、全腎協、東腎協や患者会の機関誌の配布や、回覧板の取り扱いなどがあります。代々木病院では、総会とか、キャンペーンとか、すべての行事を回覧板にして、全員

まく突き止められないし、対策もないという状況です。

の出欠をとるようにしているのです。

連絡員には、これら重要な仕事をしていたらいいことですが、役員ではないということ、おとしよりでも、主婦の人でも配るくらいならということ、気楽に引き受けていただき、とても助かっております。

この制度は四年間もやってきていますので、順番にやるという雰囲気が出てきて、毎年違う人になっていただき、それも良かったと思っています。

そのほかに、機関紙に関しては、七年ほど前の五十四年に、第一号が発刊されました。もと



久保谷恵子さん

もとは透析室の親睦のためというところで、スタッフと患者の交流の場ということで始まりました。その時は腎友会ニュースというものが別にありまして、年三、四回発行しておりましたが、両方あっても大変なので、三年前からは、機関紙「トマトクリット」一本にしております。毎月発行ということで、この七月号で第八十三号になりました。

つきに、病院との協力関係なのですが、もともと腎友会を結成するものが、腎臓病に関する学習会が発展したもので、先生が組織してくれました。最初からスタッフ側が腎友会を作るということで、腎友会を尊重してくれて方針をずっとつけてきてくれています。腎友会も病院側を信頼して協力するという、良い関係がずっと続けられています。

スタッフの患者会活動に対する参加は、総会、透析部会、著名など大きな運動に関しては、全員してくれれます。それから、学習会、キャンペーンには、スタッフ三十五人くらいの中で、参加できる人、半分くらいが出てきています。旅行は、スタッフの中に家庭持ちの人も多く、お金もかかりますので、希望者だけということで、医師二人を含めて六、八人くらい、いつも参加してくれれます。役員会にも

医師、婦長、事務長、看護主任、技師主任などが、かならず出席して、要求など話し合ったり、変更などがあった場合も、かならず役員会を通してやってきています。

援助金として、病院より機関紙の印刷代を隔年負担していただけしております。年六万円程度です。

最後に、会活動上の問題点ですが、ここ二、三年前までは、大体いい状態だったと思います。会費の払いもいいですし、一年の活動を通じてみると、皆どれか一つの活動には参加するという状態でした。

しかし、患者がどんどん増えていっても、その割に参加者が増えず、むしろ減っていくという状態が、この所つづいているのです。ベッドが三十床もあり、知らない人はいつまでも知らないでいるとか、六十歳以上のお年よりが二割以上もいて、

なかなか会活動に参加できないということもあります。

一方、若い人は社会復帰がどんどん進んで、とても仕事に忙しく、日曜日は予定があったり、日曜日ぐらいい休みたいというので、つい役員も遠慮したりしてしまいます。

役員も毎年違う人もやってくるのですが、実際の活動となると、いつもやっている人がやっってしまうということがあり、ちょっと問題であると思います。これらをどう解決していくかというところ、個別的に訴えていくとか、話し合いというきめ細かい運動を行うしかならないのではないかと思っています。



たえこのひとりごと へ15 へ

木村 妙子

☆)★( 　　)  
もしもの仮定

歴史学では「もしもしだったら」という仮定は邪道とされているらしいが、素人の歴史好きの人間にとっては、一番興味ある所である。古くは武田信玄が西上途中で急死しなかつたら、天下はどうなっていたらうとか、近代史では坂本龍馬が死んでいなかったら明治維新はどうなっていたかなど、話しても

尽きない程の面白さである。これは個人史にも言えること

で、あの時あしなかつたら、私の人生も少しは変わっていたかもしれない。こうしていたら、道が開かれたかもしれないなど

にでもあることだと思ふ。

その点、東腎協会員の私達にとっては、やはり一番、病に捉えられず、透折にならなかつたらという思いだけが強く、あとの小さな選択はあまり問題にならないようだ。

ある程度の年配になってからの人々にはまあ、人生を築いたあとであれば、苦しみはあっても痛切な思いは少ないかもしれないが、若くしてこのような境遇に落ち込んでしまった人々は皆もし透折にならなかつたら、人生が変わっていたかもしれないという思いにひきこまれることが多いと思ふ。

しかし、透折にならなかつたら味えた人生もあるが、透折になつたために知ることができた

人生もあるような気がする。いやなことばかり体験しているよとの反論の声も聞えてくるけれど、負け惜しみでなく、いやなことの方が多いのも事実かもしれないが、いいこともなかにはあると言えらる。

それは人との巡り会いである。一般社会では職業上の交際は別として四十歳をこえて、心の触れ合いを持つことができる友人知人を得ることは難しいように思える。けれど、透折という極限状態に立たされているせいか心が通じる仲間というものが、心を開けば意外と身近にできるものなのだ。それも男女を問わず、色恋でもなく、同じ悩みを話し合えるということは本当に心安まることではないだろうか。

☆)★( ☆)  
一冊の本との出会い

それから病いを得たために心が深くなるというか、いろいろ

なことをありがたくという少しちがうような気もするが、思いを込めて体験できるような気がする。人との出会いもそうだし本との出会いもそうだ。

先日編集担当の加藤さんから東腎協の事務所で一冊の小冊子を読んでみたらとすすめられた。それは限定七百部のうちの七八番に当る「ひとひかり」という小冊子の追悼文集(発行人・百崎弘子、編集責任者・仙頭利通、印刷・製本・福岡コロニー)であった。

写真家・百崎大二さんの写真集と追悼文を合わせた本当に小さな本であるが、中学二年から慢性腎炎に苦しみ、三十二歳で急逝された一人の誠実な、そして才能ある人の人生をしっかりと伝えてくれる本であった。

私のように何もなし得ない人間が透折後十四年間も余命を保っているのに百崎大二という人はありあまる才能を抱いたまま

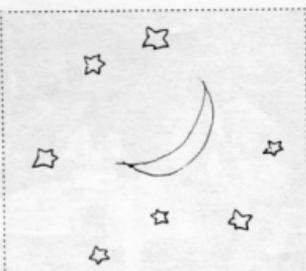
透折後一年を経ずして、天へ去ってしまわれたのだ。

人間の世には様々な不公平がある。貧富もそうだ。美醜もそうだ。しかし健康と不健康ほど苛酷な不公平はないように思われる。これは決して一生を健康で過ごせる人をうらやむのでもなく、憎むのでもないのだが、

天の摂理というものも本来平等なものなのだということは声を大にして言いたいし、健康な人々も決して行いがよいからでも先祖がよいことをしたからでもないし、ある宗教を信じているから健康なのでもなく、単なる偶然なのだとすることを自覚してほしい。

そうすれば病者や肢体不自由者、先天的にせよ後天的にせよ脳に障害を持っている人々に対する蔑視や差別観などは改められるにちがいない。

この本で皆に心から追悼されている百崎大二さんが早く死な



え・福元美保子

なければならなかった原因は慢性腎不全である。よく宗教でいうように因縁でも因果でもなく、誰でもかかる可能性のある病気なのだ。昔は結核で、このように惜しまれて亡くなる人が多くいたと知っている。いつか、腎不全も結核のように人間の治療方法によって克服される日が来るのだろうか。

☆) ★ ( 科学が進んでも :

だが、その頃にはエイズのような病気がまた人類を苦しめて

いるのかもしれない。

どのように科学が進んでも全体が百パーセント健康で満たされた社会というのはこないような気がする。とすれば、社会全体の何パーセントかに当る弱者とはその全体の不幸に代って、苦しみを引き受けた者達とも言えるのではないだろうか。

キリスト教社会では建前にせよ社会全体に、苦しむ人々を神から与えられた試験を受けている人々として皆が手を差しのべる社会的倫理があるようだが、

この日本社会では政府から労働

組合まで隠してはいるものの、弱者軽視の風潮が及んでいるのではないかと、先日も仲間と話し合ったことであつた。

役に立たないものはそれ相応の生活で我慢しろという思想が誰の心にもあるような気がする。これは患者自身の中にも、浸透している古来からの日本の伝統なのかもしれない。

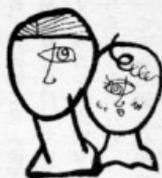
確かにせいたいくを望むのはおかしいかもしれないが、役に立たない人間は小さくなって生きろというのは少しひどいのではないだろうか。

百崎さんの言葉に「俺は一体何の為に生きているんだ? 何の使命をおびて? 何を目的として?。こんな考え方はいけない。お前は、人生やりたいことをやり、平凡に没してもいいんだよ。」とあつた。深く心にしみいる言葉だつた。

九月二十七日

(東賢協常任幹事)

# なかま の たより



## 会員交流会に 参加して

松川 秀雄

数年前、事務を通して共済組合に「退職した場合、傷害年金を頂けるのか。その場合、年金額はいくらになるか」と問い合



わせてもらった。

ところが帰ってきた事務員の話によると「人工透析ぐらいの病気に年金を払えるほど共済に余分の金はない」と言われたとの事であった。それ以来、胸に何かがつまったような感じでスツキリしない日々であった。

今日、交流会に参加して石川会長、柳副会長より「公務員共済だけは、在職中支給停止の一項があること。但し、傷害の認定はすることになっているから手続きを取るように」と詳細な説明を頂いた。「何でも相談ののから気軽に電話してくれ」とも言われた。

今まで一人で悩んでいたのが、急に強い味方が出来たような気持ちになり、参加の喜びをかみしめながら帰宅した。

(拝島三井クリニック腎友会)

岡本 侃一

会議室では、役員の方々始め

会員一同が手願よく会活動、医療と食事、東腎協、福祉、健康、生きがい、長期透析、婦人部問題等々各テーマに分かれて討議、大いに語り合い、有意義な一日を過ごすことが出来たことを喜びとします。

なお、今後共このような交流会を出来る限り開催され、多数の方々の参加と会発展を望みます。  
(腎研友の会)

白井 次郎

私は、Dグループ(生きがい)に入りましたが、まとめの発表をなさった方が、旅行に生きがい程度でしかなくて残念でした。

◎若い人の発言で「甘えはイケない。水も飲めるじゃないか。たまには水割りだっていける。毎日、食事も食べられる。腎不全だ、透析だと情けないことを言わないで人生を生きて行くんだ」——なかなか良いことをお

っしゃいました。

◎私の考え―毎日、朝起きると煙草がうまい。それに朝メンもステキだ。今日一日楽しく過そう。これからそう長い人生が待ってる筈はない。一日、一日を大切に生きていくことだ。

旅にも出られる(若干の苦勞はあるけれど)。三月にホノルルのセントフランシス病院で二回の透析をしたので、この病院の透析についてお話しなく、グループのリーダーに話しておいたのですが、これも忘れてしまい、若干の資料を用意してきたのに残念でした。(七月十四日)

### 竹中 貞 昭

透析十三年目に入る小生は、Fグループの長期透析者合併症について加わり、集まった十二人の方々と共に合併症についてお話を聞くことが出来て、極めて貴重な体験を知ることが出来、有意義な交流会の一日であった。

殊に手根管症候群と骨軟化症、ばね指の二人の方の具体例と手術後の経過の話は自分は現在、ばね指と肩痛に悩んでいる時だけに参考になったわけです。

今後は、十年以上透析者には少なからず発生するであろうこれらの合併症対策として新ダイアライザーの改善を早急に進めて頂くよう東腎協並びに全腎協へ提案したい。会員を集め、お互いの交流を深めるために「東腎協への会員となって活動しよう」という冊子を早急に作り定型化して頂きたいと思う。

今回のグループ座談会方式は全く盛況であり、つっ込んだ内容で交流が出来て非常に良かったと思う。幹事さん、ご苦勞様でした。

(立川第一相互病院腎友会)

### 池田 良 恵

「婦人特有の問題について」の話し合いに参加させていた



きました。

透析をしてから不正出血になった人、生理が長くなった人、逆に生理が普通に戻った人、膀胱炎になってなかなか治らない人、トマトが身体に良いと聞き、毎日一つずつ食べて高カリウム症になった人、皆それぞれに悩みを持っている、と私は感じました。

もっと自分の病気を知り、なぜカリウムが上がると心臓に悪

いのか、塩分を五割におさえないと細胞がどうなるのか、さまざまな疑問を持ち、勉強するところがいっぱいあります。

腎友会から「生活と透析」という小冊子をいただき、初心者には大変わかりやすく書いてあり、良い教本と思いました。と同時に耳からも勉強できたらもっと良く理解出来るようにも思いました。

この交流会には、時間が足りない程価値がありました。こういう機会がありましたら、また参加させていただき、透析経験の長い方のお話を伺って生活の糧にしたいと思えます。

(拝島三井クリニック腎友会)

### 古高 英子

私は、この夏で透析十五年目に入りました。十五年といっても、この四、五年です、体の調子が良くなったのは。その前まではほんとうにつらい苦しい透

折でした。

内、外シャントの手術、貧血(保存血で血清肝炎)、かゆみ、高血圧、腹膜かんりゅう、体中神経痛、昭和五十七、五十年頃は水分、塩分、水はほんとうに厳しかった。今は透析機、透析液が良くなり、データも良い人が多くなりました。ほとんど普通食。

私は、十年近く生理がまったくなくなりました。五十六年頃から体調が良くなり、ヘマトも上がり始めて四年半になります。毎月ちゃんとなります。バイカーボに変わってから透析が楽になり吐くことがなくなりました。ヘマトも少しは上がります。

七月十三日(日)東腎協の会に初めて出席致しました。皆さん透析に対して一生懸命勉強しているのには、とっても感心致しました。また、こんな機会があったら、出席したいと思いま

す。

(国分寺クリニック観光会)

### 学習交流会に 参加して

京葉病院腎友会  
當 友一

七月二十日の学習交流会に初めて参加させて頂き、有難うございました。他の会の実態及び活動状況が多少ながら知ることが出来ました。

今後は、自分達の会も参考に取入れて活動したいと考えています。欲を申しますと、座席の方法を円卓方式がよいのではないかと思うのであります。また最後に時間を組んで放談会方法もよいのではないでしようかと考えます。

### 空想の世界

#### への旅たち

北病院腎友会 坂口 光義  
真夏の照りつける連日の猛暑

からなにか逃れたい心境から涼風への旅たちへのあこがれから、ふと脳裏に描いた幻想の世界。

ある日、いつもと変わらず町並を散策していると、しばらくして小高い丘にたどり着く。すると、そこはいつ頃出来たのか洞くつがあり、奥からはひんやりとした涼風がつつわって来る。暑さから逃れたい一心で、奥へ奥へと入っていくと、やがて

中は暗やみで何も見えなく、時おりコウモリが飛びかう。薄きみ悪い中を進むと、やっと出口に出ると、そこは今までとは違った。

幻想の世界。空を眺めると果てしなく広がる青空の爽快さ、そして、あたり一面薄の茂った高原にたらずで居ると何処からともなく白樺林の向こうからフルートの美しいメロディーの響き「ファンタジー」が響き渡って来ると、今までの疲労感

も消えうせ、満悦感に変わってきます。

### 患者会役員 の皆さんへ

ニレ友の会 中田 青攻

日頃、患者会にあって患者の皆さんに接し、種々な問題で考え悩んでいることもあろうかと思えます。多くの人が集まるということは、反面種々な意見、考え方があるということでもあります。時によっては、幹事さんと全く相入れない意見もあるはずです。どんな社会形態の中でもこのように意見の相違がありますが、皆さんそれぞれが、よく融和しているのも事実です。むしろ、患者会の中において大なり小なり意見、考えを表面的にいわれる人を貴重としなければこれからの患者会を発展・進歩させることは難しいのではないかと思います。

役員の方々は、会員の皆さん

んとの日頃の交流をどのように考え接しているでしょうか。患者会運動の最も大切なことは何かといえ、私は会員相互の交流から始まる信頼であろうかと思ひます。

交流は、一方からだけの意志伝達だけでなく、もう一方からの意志伝達、即ち相互の意見の交換としてごく自然に芽生えて

### サークル順調です

須賀 春美

みなさんお元気ですか？ 私には元気で。

サークルをつくるにあたって色々ご協力いただきありがとうございます。

現在、メンバー(サークル)も十人となり、八月二十四日には九十九里へ車二台で行くというところまで出来るようになりました。どこまでやれるかわかりませんが、とにかくがんばりま

こそ本来の交流の形だろうと思ひます。

役員さんも仕事をもち、その上皆さんのお世話をされることで苦勞なことです。まず自ずから患者の皆さんに話し掛けを(特に新しい患者さんに)行ってお互いの言葉を通じて相手を理解し、患者さんの不安と戸惑いを和らげる手助けをしてや

す。

それでは、さようなら。

### 文通できました

鹿児島市 稲森 明

今回、本当にお世話になりましたから感謝しており、つついとお礼のあいさつが遅れておわびを申し上げます。それに機関誌までお送りいただきましてありがとうございます。

お陰ですぐ効果が出て、世田谷の女性の方の手紙が届いてうれしく思い、乱筆乱文ですが一

つたらいかがでしょうか。

役員さんもこうなるというリーダー的立場になりますので人生の生きざまに胸を張って患者の皆さんに自ずから駆け込んで行ってほしいと思ひます。

人は得てして病める立場になると般に籠りがちになるもので少なくとも役員である皆さんは、このようなことのないように心

生懸命書いて御返事を出しました。お互い何かプラスになればと思ひます。

鹿児島も今はお盆も過ぎ残暑もきびしく、今年は例年より火山灰が少なく七月に一回程大量の降灰がありました。昨年よりはすこしやすしい夏でした。これからも腎臓病患者さんのために、東腎協事務局のみさん大変だと思ひますが頑張ってください。私も鹿児島でガンバリます。

(八月二十一日受付)

がけて頂きたいと思ひます。患者の皆さんからの問いに対して親切にわかりやすく対応し、年金、医療、生活などの問題について良きアドバイザーになり中継窓口として知る情報を提供して頂き、わからない場合は東腎協事務局へ連絡して問題の解決にあたられるようお願いしたいと思ひます。

これ等のことを通じて、会員相互の信頼をより強くすることになると思ひます。

私は、今年四月から東腎協常任幹事としてお手伝いさせて頂くことになり、先輩の皆さんと会の運営について席を同じくした感想は、日曜の休息の時間・午後一時から五時まで目白の事務局に集まり、年間の活動計画に基づいて真剣に討議し、大変なことだと思ひました。どの組織でも上にいく程、大変なんだということが及ばずながら少しはわかったような気がして居り

ます。

私と患者会の皆さんのために  
今後も頑張りたいと思えますの  
で、役員の皆さんも身体に十分  
留意して今後共よろしくお手伝  
い下さい。

### 詩 生きる

北病院腎友会 井本美江子

なんでそんなに悲しいことばか  
りで

笑っていられるの?

友人は、私に問いかける

「生きてるだけで幸せだから  
よ」と

答えている

そう、今、私達透析仲間、ま  
わりの人に生かされてもらって  
いる

いつまでも、それだけは忘れて  
はならないと思う

### ハレーに乗りたい

拜島三井クリニック腎友会

水村 勝美

今年七十六年ぶりにハレー  
すい星がやってくる。前回は  
一九〇一年にやってきた。もちろ  
ん僕は生まれていなかった。前  
回の時はまだ科学が発達してい  
なかったでいろいろ変なうわ  
さがあつたらしい。ハレーが通  
過する五分間だけ空気がなくな  
るといった根も葉もないうわさ  
が流れたらしい。今から考える



とバカバカしいが、当時の人々  
では仕方がなかったかもしれな  
い。逆にいえばハレーにはそん  
なうわさをたてさせる魔力のよ  
うなものがあるのかもしれない。

七十六年前に見た人もいるだ  
ろうが僕にとっては未知の神秘  
的なできごとだ。でも七十六年  
に一回地球の近くにやってくる  
ハレーはそれだけ魅力的である。  
なぜかドラマチックな気がする。

そのハレーにもしも乗れたらど  
んなにすばらしいだろうか。今  
年僕は二十五歳になる。ハレー  
に今年乗って今度地球に帰って  
くるには百一歳になっている勘  
定だ。それまで生きていられる  
かどうか分からないが一度乗っ  
てみたい。もちろん空気も水も  
ないのだから無理に決まってい  
る。

でも今度地球に近づく二〇六  
〇年頃には科学が発達して、も  
しかしたらハレーに乗れるかも  
しれない。僕は無理だが僕の子

供が孫が乗れる日がくるかもし  
れない。だって七十六年前には  
月に行くのだって夢のまた夢だ  
ったのだから。

もしもそれが可能になったら  
すばらしいと思う。その頃には  
透析せずすむかもしれない。  
これまたすばらしい。だから僕  
達透析患者も明るい日と書く明  
日にいつでも希望をもって頑張  
って行きましょう。

ああ、それにしてもハレーに  
乗りたくないナ。

(拜島三井クリニック腎友会  
機関誌「にいれ」No17より)

友の会の日帰り  
バス旅行楽しむ

西新井腎友の会  
斎藤 利男

残暑が続く九月七日、腎友の  
会日帰りバス旅行が行われた。  
晴天に恵まれ皆うきうき。夜の  
透析室でかわすあいさつよりも  
元気の良いこと、心が晴ればれ

と青空のごとく元気がいっぱい、「オハヨウ」「よろしく」と。

スタッフ六名、その中にはいつもニコニコ顔の勝又主任、テクニシャンの竹ノ内さん、その他看護士、看護婦三名、血圧計を持参してバスに乗り込み、主任は少々緊張気味。

午前七時四十五分、五十三名の目的地の山梨県目指し発車オーライノ

途中、高速Pで小休息、河口湖で休息、その度水分制限等で苦しんでる透析者は、この時とばかりかき水を食べる人、そばを食べる人、水上ボートで一週する人、皆一日太平であった。十二時旅館に到着。昼食、宴会、カラオケ歌う人、温泉に入る人、それぞれ思うがままに自由行動の二時間半も終り、午後からのスケジュール。まずワイン工場見学、宝石工場、ぶどう園で小休息。

いよいよ帰途目指し中央高速、

首都高。無事なんの事故もなく午後九時、一日太平の日は終った。

また、明日から透析を受ける人、職場へ向う人。次の目標を目指し、元気に五年後、二十一世紀まで十四年後、それぞれ自分自身との闘いを勝利するため休息になったことを確信して皆さん、頑張りますよ。

### 勝沼へ日帰りぶどう狩りの記

調布東山病院腎友会

武富 正治

昨年三月発足した当腎友会では、初めての催しとして九月七日（日）、勝沼（山梨）へぶどう狩り旅行に出掛けました。

参加者は、当初予想をはるかに上回り総勢約六十人（病院側スタッフ七人）、二台のバスに分乗、午前九時二十分病院を出発しました。

好天に恵まれ、中央高速を進

む程に窓外に繰り広がる雄大な山々の景色は、都会を離れ久々に味わうたとなようなない爽快な気分を満喫しました。車の進歩と共に車内では得意の咽を次々と披露され家族共々大賑いのさばり様でした。

途中初狩で休憩。バスは順調に走り続け、行けども行けども窓の左右に繰り広がるぶどう畑に流石に感嘆相次ぎました。

目的地・勝沼インターには予



定通り到着。ぶどう園は、下車後二〜三分の所で早速ぶどう棚の下で昼食しました。巨峰、ベリーAはかぶどうジュース、湯茶の接待を受けました。

希望者は、近くのぶどう畑に出掛け、三〜四種類のぶどうを切り取りお土産用を準備しました。味の方ですが、一般店頭売りとはずば抜けて新鮮、味も最高でした。

午後二時過ぎぶどう園を出発、第二予定地のモンテ酒造を見学。ワインの製造工程、またお目当ての試飲場で飲み放題とあって用意された数多くのワインが大勢の人で大盛況、即売場も人々で買い求めるのに一苦労でした。午後三時頃、帰途につききました。



## 事務局から

### 腎臓病無料検診

32人が受診

東京都の委託事業として東難連の行っている腎臓病無料検診は、8月24日に開かれました。

当日の実務は東腎協の役員など(12人)が中心になって進められました。協力医師は小出桂三先生(帝京大学第三内科教授)詫摩武英先生(東京女子医大腎総合センター内科助教授)東間

絃先生(同泌尿器科助教授)酒井耕先生(北里大学医学部腎センター助教授)の四先生方で、今年には栄養相談として山下光雄先生(慶応義塾大学栄養科長)にも協力いただきました。

慢性の患者さんが対象です。慢性腎炎Ⅱ4人、ネフローゼ症候群Ⅱ5人、慢性腎不全(非透析)Ⅱ4人など32人が受診しました。

一人20分として先生方にはお

願いしましたが、このようにゆっくりと先生と患者が話し合える機会がないので、どうしても30分〜40分と時間がのびてしまいました。

先生と患者が納得いくまで話ができるので、受診された皆さんは満足して帰宅されました。

腎臓病無料検診は毎年一回実施されます。慢性会員の方は一度受診されたらどうかと思います。

なお、東腎協役員による年金相談、入会相談なども同時に行われました。

### 15周年記念全腎協総会

新潟へバスツアーの旅  
東腎協創立15周年の記念事業の一環としてバスツアーを企画しました。

来年の5月24日(日)の全腎協総会に向けて実施するもので、23日、24日の両日にわたり新潟などを観光しながら総会に多数参加しようというものです。

予算など詳しいことは決まっていますが、大型バス2台を予定しています。

会員との結びつき、活動への参加の両面にわたる内容が含まれたバスツアーです。大勢の人の参加を期待しています。

次号(一月発行)で詳しい内容をお知らせする予定です。

### 常任幹事・全腎協事務局員 合同バスハイクイ五色沼

活動の合い間をぬって、常任幹事17人、全腎協事務局員5人、その他7人の29人が参加しました。(9月13、14日に実施)

このバスハイクでは仕事(活動)のことは忘れて、楽しく過ごそうという内容のバスハイク主旨説明が柳幹事(旅行のまとめ役)からありました。

この旅行についていたことは見物中一度も雨に合わなかったことでした。帰りのバスでは、にわかにかラオケ大会が開かれ、普段はみ

られない顔がのぞかれました。

### 全腎協・日患協国会請願 署名運動にご協力を

署名運動も締切(11月末日)まであと一カ月後に迫りました。知人、友人などにもひとまわり声をかけて下さい。

### 新入会員紹介

よろしく

佐藤かね、丹沢伸浩、渡辺チセ、伊藤レイ、長谷川雅子、後藤蘭子、坂本金助、船木律子、馬場洋子、越川國夫、紺野一郎、亀山精司、阿萬野功、鈴木正明、野沢るみ子、小井川洋三、金子節子

### 編集後記

来年、東腎協は結成15周年を迎える。記念事業として機関誌で特集号も企画されている。ガンバラねばと思う。

医療・福祉をめぐる状況は、後退の方向へ目に余るほど押し寄せている。機関誌の役目は重要だと痛感する。(加藤)

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可

SSK O通巻第一三九六号(毎週月・水・金曜日発行)

昭和六十一年十月二十六日発行

発行所

身体障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

頒価百円